

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	算数科 拡大図と縮図
学年	小学校6年生
目標	プログラミングにより、三角形の拡大図・縮図を描き、既習の学びを深める。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	教科書、児童用コンピュータ、大型提示装置
環境	児童一人につき一台タブレット PC
都道府県	大阪府
実施校	守口市立錦小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>○算数科の「拡大図と縮図」の単元の終末において、学習したことを生かして、「スクラッチ」でプログラミングによる作図を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">既習を振り返る。(三角形の2倍の拡大図の描き方) 「もっと簡単に作図するにはどうしたらよいか」という課題を提示する。 【児童の思考】<ul style="list-style-type: none">自分で行う計算が3回あり、面倒。→PCなら速いのではないか。PCに入力するのも面倒ではないか。入力をできるだけ減らす方法はないかを検討する。 【児童の思考】<ul style="list-style-type: none">スクラッチの「演算ブロック」を使用することにより、入力回数を減らすことができることに気付く。実際に作図を行う。数値を変えて、別の拡大図を作図する。「繰り返しブロック」を使用し、連続して様々な作図を行う。身の回りでプログラミング(演算・繰り返し等)により簡単に実行できることはないかを共有する。
成果と課題	<p>(成果)・本単元の理解が促進された。 ・プログラミングにより、演習数が増加した。</p> <p>(課題)・PCの操作は、今後も系統的に指導することが重要である。 ・学習内容がやや高度になる場合に留意すること。</p>